バブル経済崩壊後の財政運営

はじめに

この夏、地方自治体関係者を震え上がらせるニュースが全国を駆け巡りました。「北海道夕張市の財政破綻」報道です。「一時借入金の濫用」という同市の不明朗な会計処理が招いた事態とはいえ、「高島市は大丈夫か?」と市民の皆さんからもご心配いただきました。

度々お伝えしているとおり、市の行財政を取り巻く環境は、近年大きく変化しています。

市では、ここ数年引き続いた景気の低迷などから市税(旧町村税)収入が大幅に減少する一方で、必要な社会基盤の整備等に不足する財源に充てるため、貯金である基金を取り崩し、同時に借金である市債(町村債)を大量に発行してきたことから、現在多額の借入金残高を抱え、また、基金も残高が僅かになるなど、財政の硬直化が一段と進んでいます。

最近の経済情勢を見ると、今後の景気回復による市税収入の増加に期待がかかりますが、大幅な回復はまだまだ見込めない状況です。

こうした厳しい財政状況から脱するため、市では平成18年2月に「高島市財政再建計画」を策定し、中期的な財政の見通しとその対策を示し、現在財政改革を進めています。

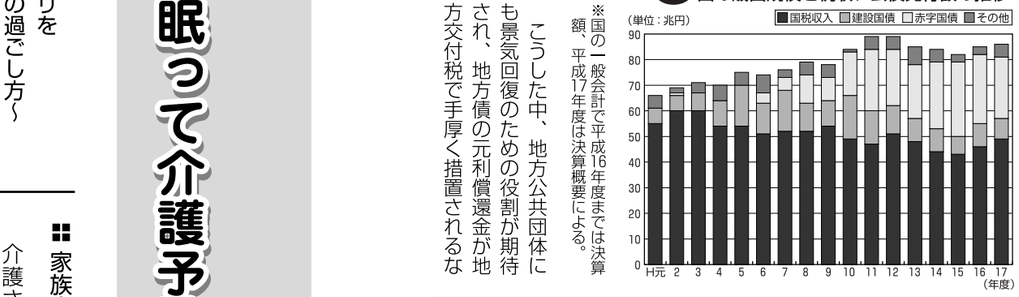
今号から始まったこのコーナーでは、市民の皆さんに本市の財政状況をお知らせし、財政再建にご理解ご協力をいただくため、本市を取り巻く行財政の概況や動向などを4回にわたって連載します。

第1回目は、「国と地方を取り巻く財政状況および構造改革」についてお伝えします。

国と地方を取り巻く財政状況および構造改革

国では、いわゆるバブル経済の崩壊後、景気回復のため積極的な公共投資を行ってきました。財政構造改革に向けて舵を切った時期もありましたが、大型金融機関の破綻などの深刻な経済不況に直面し、財政構造改革法が凍結されるなど、平成13年度まで毎年経済対策による補正予算が編成されたように、国債を増発しながら景気対策を重視した財政運営が続けられてきました。(図1参照)

図1 国の歳出規模と税収、公債発行額の推移



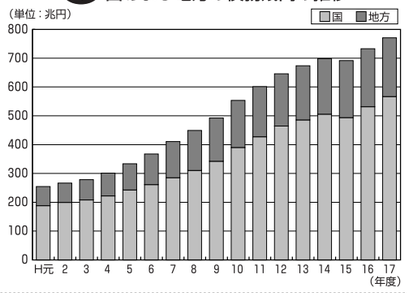
※国の一般会計で平成16年度までは決算額、平成17年度は決算概要による。

こうした中、地方公共団体にも景気回復のための役割が期待され、地方債の元利償還金が地方交付税で手厚く措置されるなど「地方単独事業」による公共施設の整備などを促進する環境が整えられたことで、地方公共団体も積極的に単独事業に取り組みました。

しかし、こうした景気浮揚の取り組みにもかかわらず、景気の低迷が長引いたことや、この間に行われた政策的な減税などで歳入が減少し、さらに高齢化に伴う社会保障関係経費の増大などで、国と地方を通じた財政構造は年々硬直化し、今や危機的状況になっています。

特に近年は、投資的経費を抑制しているにもかかわらず、税収の減少で赤字国債の発行額が過去最高に達するなど、国と地方を通じた長期債務の残高が平成17年度末で770兆円にも達すると見込まれています。(図2参照)

図2 国および地方の債務残高の推移



今後においても、財政構造の思い切った見直しがなければ、歳出と税収の多額のギャップが年々拡大していくことが懸念されます。

国では、「厳しい経済情勢にあっても、日本経済の再生を図る道は構造改革以外にない」、「改革なくして成長なし」との基本的な考えのもとに、平成13年6月に「今後の経済財政運営及び経済社会の構造改革に関する基本方針」いわゆる骨太の方針を決定し、平成14年1月に「構造改革と経済財政の中期展望」が示され、両者を一体としての構造改革が進められました。その後も、「経済財政運営と構造改革の基本方針2002～2006」(骨太の方針・第2～6弾)を決定し、「構造改革と経済財政の中期展望2002～2005改定」などが示され、更なる構造改革が進められています。

なお、「経済財政運営と構造改革の基本方針2003」(骨太の方針・第3弾)では、

(1) 国から地方への税源移譲
(2) 国庫補助負担金の廃止・縮減
(3) 地方交付税の改革

を一体として行う、いわゆる「三位一体の改革」が示され、平成16年度から平成18年度までの3年間の改革期間で取り組まれています。

元気いきいき生活応援します!

シリーズ5

気持ちよく眠って介護予防

きちんと眠れていますか?

「なかなか寝付けない」「一度目覚めてしまうと寝にくい」こんなことはありませんか?とてもつらいことですね。

◆寝不足や不眠の影響
・風邪をひきやすい
・意欲や注意力が低下する
・体がだるい　など

気持ちよく眠り、元気にいきいきと生活したいですね。

◆生活にメリハリを
～快眠のための過ごし方～

朝
・決まった時間に起きて、太陽の光を浴びる

昼
・午後3時までの間に30分以内の昼寝の時間を持つ
・趣味や家事などを楽しむ
・軽い運動を(30分程度)

夕
・入浴はぬるめのお湯でゆっくりと

夜
・アルコールやカフェインは避ける(お酒は晩酌程度に)

家族介護教室開催のご案内

介護されている方や介護に関心をお持ちの方々を対象に、家族介護教室を開催します。介護の場を離れ他の人と情報交換をしたり、介護者自身もホッとできる時間をもつことで、家に帰ったときの気分はきっと違うはず。ぜひ足をお運びください。

▼日　時　12月11日(月)
10時30分～14時
▼場　所　新旭保健センター
▼内　容
講話「介護と充実した生活の両立のために」
～おしゃれ心をとり入れよう～
▼参　加　費　昼食代(1,000円)
▼申込期限　12月5日
問 新旭保健センター
☎(25)8110

いきいき元気高齢者のつどい
～みんなの元気で地域を支えましょう～

退職後も、80歳になっても、いつまでも元気でいたいあなた、ぜひご参加ください。元気に過ごせるヒントを見つけましょう!

▼日　時　12月2日(土)
13時30分～16時30分
▼場　所　安曇川公民館ふじのきホール
▼内　容　講演・体験発表

問 地域包括支援センター
今津町名小路1-4-1(高島市役所別館1階)
☎(22)0193　FAX(22)0292

活動紹介　介護予防につながる活動を紹介します!

今月、このコーナーへ登場してくださるのは…

今年の誕生日で89歳になるSさんは毎週日曜日と祝日に在所の新聞配達を30年近く続けられています。距離にして1km以上、老人車に新聞を乗せて1軒ずつ歩いて配達します。早朝、みんながまだ眠っている間の配達はある間がありません。またSさんは現役の主婦でもあります。仕事をしている家族のため家事はほとんどSさんが担当しています。「家族が喜んでくれるし、せいが出る。みんなに喜んでもらえるのが元気の秘訣。」

「この年になっても楽しいことばかり」今日も犬の散歩に出かけるSさん。小走りで家の方に行かれる姿はもうすぐ90歳と思えず、いきいきと印象的でした。

「静かやし楽しい。朝早いとすっきりした気分になる。みんなも『早よ来てくれはったな』と喜んでくれるしそれがまた楽しみ」とSさん。

若い頃から歩いたり走ったりすることが好きだったそうです。今でも畑仕事の合間にゲートボールをするなど、じっとしていない